

一 次の問一～問三に答えなさい。

問一 次の1～8の——線部のカタカナを、それぞれ漢字または漢字とおくりがなで答えなさい。

- 1 成功のコウサンが高い。
- 2 機械がコシヨウする。
- 3 消火設備をテンケンする。
- 4 急行列車がツウカする。
- 5 試合のハイインを分析する。
- 6 希少動物のブンブを調査する。
- 7 早寝早起きにツトメル。
- 8 司会を委員にマカセル。

問二 次の1～4の——線部の漢字の読みを、それぞれひらがなで答えなさい。

- 1 熱帯に生息する鳥類。
- 2 運河で栄えた町。
- 3 値上げに便乗する。
- 4 物資を鉄道で輸送する。

問三 次の1～4について、それぞれ用い方の誤った漢字を一字ずつぬき出し、正しい漢字を答えなさい。

- 1 清潔な部屋で楽機の練習に専念する。
- 2 不得意な教科の学習を混気よく続けた。
- 3 青果市場から出家された新鮮な野菜。
- 4 主帳の異なる両国が激しく議場で対立した。

二 次の問一～問三に答えなさい。

問一 次の1～5の文の（ ）に入れるのに最も適切な語を、後のア～オからそれぞれ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二回以上使ってはいけません。

- 1 （ ）一人になっても戦い続ける。
- 2 （ ）雪は降らないだろう。
- 3 このチームでは（ ）勝ち目はない。
- 4 （ ）お立ち寄りください。
- 5 （ ）魚がはねるような姿だった。

ア たとえ イ どうてい ウ ぜひ エ ちようど オ まさか

問二 熟語には、次の1～4のような読み方があります。後のア～エの読み方として適当なものを、それぞれ選び、番号で答えなさい。ただし、同じ番号を二回以上使ってはいけません。

- 1 音と音（例 増加） 2 音と訓（例 仕事） 3 訓と音（例 強気） 4 訓と訓（例 真綿）

ア 番組 イ 若者 ウ 導入 エ 手相

問三 例にならって、次の1～4の□に、熟語が二つできるように、漢字一字を入れなさい。

例 増加工 ↓ 増加・加工

- 1 国□箱 2 設□場 3 名□気 4 古□表

三

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

わたしは、日本国憲法について、「いのちの泉のようなもの」という感じを持っています。その泉は、深い山の中で静かに清水を湧き出しているもののように、出てくる水はともきれいで澄んでいます。①泉のそばには立て札などはありませんが、その泉はだれが見ても汚してはいけない大切なものだといわれます。なぜなら、その水はいのちだからです。次々と生まれてくるいのち。それを静かに守る泉。わたしは人間のいのちと日本の憲法の関係をそんなふうにとらえています。

人間は子どもからおとなになるにつれて、だんだん頭が固くなり、ものの見方が固定的になっていきます。だから、おとなの人にこの話をする、「憲法が泉? 童話じゃあるまいし」と思われるかもしれません。でも、この世でいちばん大切なのはいのちで、それをだいに守るものが憲法だとすると、②このたとえはわかりやすいですか?

人間にとって最も大切なものは、お金や財産、地位や名誉ではありません。きみたちがこの世に生まれたときに与えられたいのちです。いのちは自動的にあるものではなく、「与えられた」ものです。与えられたものであるから、きみたちはいのちを大切に成長させていかなければなりません。

そのことを勉強していくと、このような大切ないのちは、どんなふうに守らなくてはならないか、どのように育てていかなければならないかがわかってきます。A、いのちには値段がつけられないのだということもわかりましょう。すると、世の中にはお金よりだいじなものがあるということが、自然にこころにしみこんでいきます。「1」

ものを買うときにはお金を払います。手に入りにくいものでも、お金をたくさん出せば買うことができるでしょう。B、どんなにお金を積み上げても、いのちを買うことはできません。たくさんお金を持って

いる人も、貧乏な人も、持っているいのちはひとつだけです。「2」

C、お金がないからいのちがもらえないということもありません。どんなに貧しくても与えられるいのちに変わりはありません。「3」

わたしは「憲法はいのちを守るもの」だと思いました。③わたしと同じ考えのおとなはあまり多くありません。ちがう意見なのかというと、そうでもなくて、ほかの人たちは憲法についてあまり勉強していないのです。学校でちゃんと教わらずに、社会に出てからも勉強していかねば、しっかりした意見を持つことはできないでしょう。「4」

世の中には「憲法を変えたほうがいい」「いや、変えないほうがいい」と大きな声で叫んでいる人たちがいます。憲法をどうするのがよいのかは、きみたちが憲法についてよく勉強してから、一人ひとりで考えてもらうことにしましょう。憲法を変えろとすればどこを変えろのか、変えないとすればなぜ変えないのか、そういうことをきみたちが考えられるようになってほしいと思います。

いろいろな意見を持った人たちが話し合うというのは、とてもだいじなことです。D、わたしは、本を書くときに書き手にひとりで閉じこもっていても書けません。自分の考えをことばにして書くのですから、ひとりでもできそうなものですが、それではしっかりした考えになりません。

わたしは自分の考え方が正しいと思っているのだけれども、そこに反対の意見があらわれると、議論になります。議論のなかでは、自分が正しいと思っていることをいっしょけんめいに考えますから、さまざまな角度から自分の意見の正しさを検討することになります。

すると、自分では見えていたつもりのものが、じつは見えていなかったことがわかったり、正しいと思っていたものが、ある環境のもとでは正しくないことがわかったりします。頭ごなしにまちがっていると思えた相手の意見も、話し合っているうちに正しい部分があることがわかったりします。

だから、④意見のある人たちが話し合うというのは、とても大切なことです。わたしも本を書くときには、これから書こうと思っていることを人に話し、感想を聞くようにしています。そうすることで、多くの人のこころに伝わる文章が書けるようになるのです。

問一 A D に入れるのに適切な言葉を、次のア～オからそれぞれ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を二回以上使ってはいけません。

ア つまり イ 同時に ウ 反対に エ しかし オ たとえば

問二 — 部①の、「泉のそばには立てれなどはありません」とは、どのように「わかる」ことをたとえた表現ですか。本文中の三字の言葉で答えなさい。

問三 — 部②の「このたとえ」の指す内容を、五十字以内で答えなさい。

問四 — 部③について、筆者が「わたしと同じ考えのおとなはあまり多くありません」と考えている理由を、五十字以内で答えなさい。

問五 — 部④「意見のある人たちが話し合う」ことは、何のために大切だと筆者は考えていますか。本文中から二十五字の部分をさがし、最初と最後の五字を答えなさい。

問六 次の文は、本文中からぬき出したものです。本文中の「1」「4」のどこに入れるのが最も適切ですか。記号で答えなさい。

そのことを知っていれば、持っているお金の量で人を差別することはなくなります。

問七 次の文章は、本文を要約したものです。(ア)～(ク)に入れるのに適切な、指定された字数の言葉を、本文中からそれぞれぬき出しなさい。

わたしは、(ア 五字)を「いのちの泉のようなもの」にたとえている。次々と生まれてくる大切ないのちを守るものが憲法だと考えているからだ。人間にとって(イ 七字)は、与えられたいのちである。いのちは与えられたものだから、(ウ 五字)させていかなければならない。いのちには値段がつけられないし、お金でいのちを買うこともできない。お金持ちでも貧しい人でも、持っているいのちは(エ 五字)だ。

世の中には憲法についてあまり勉強していないおとなが多いが、きみたちは、憲法についてよく勉強して、(オ 五字)で考えられるようになってほしい。そして、いろいろな意見を持つ人と(カ 二字)をして、さまざまな角度から自分の意見の正しさを検討してほしい。見えていなかった何かに気づいたり、自分の意見がある(キ 二字)では正しくないこと、さらに、相手の意見にも(ク 八字)ことがわかったりするので、話し合うことは大切なのだ。

受験番号
番氏名
小計

(二枚目に続く)

問三	問二	問一	二
1 	1 	1 	
2 	2 	2 	
3 	3 	3 	
4 	4 	4 	
		5 	

問三	問二	問一		一
1 誤 ↓ 正	1 	5 	1 	
2 誤 ↓ 正	2 	6 	2 	
3 誤 ↓ 正	3 	7 	3 	
4 誤 ↓ 正	4 	8 	4 	

受験番号			
番氏名			
小計			
得点			

[illegible]

問六

問五

最初

最後

[illegible][illegible]

問
二

問
—
A

B

C

D


三